

昴における 認知症ケアの取り組み ～事例を通して～

小規模特別養護老人ホーム昴
介護支援専門員 高橋 奈美
介護士 中山 田村 宮永

はじめに

昴⇒6年目

この2月に

『今までで一番認知症が重度で話しがかみ合わず、自分の思い通りにならないとすぐに攻撃的になり、活動的な方』

が入所。

他の入居者様への影響も大きく、職員がどう対応して良いかわからない。
このユニットは転倒リスクが高い方も多く、職員が混乱していた。

「みんなが落ち着かない！誰を優先して、
どう対応して良いかわからない！！」

?



《事例》

・S様 81歳 女性

夫が亡くなってから一人暮らし



外出すると戻れなくなり、独居生活が困難
娘2人は別居で就労していて介護ができない



ショートステイをロング利用



平成28年2月25日昴に入所

障害高齢者日常生活自立度・・・A2

認知症高齢者日常生活自立度・・・IV

既往歴、現病歴

- 脳血管性認知症
- 脳動脈瘤
- 腹部大動脈瘤
- 心筋梗塞
- 狭心症（入所してから3回
救急搬送されている）
- 糖尿病
- 左手関節骨折

生活歴、性格など

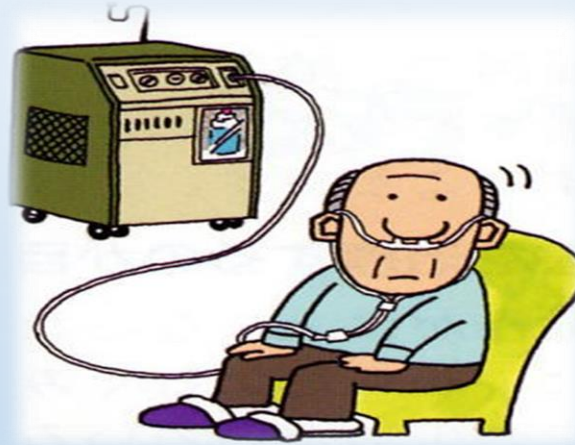
- 結婚前⇒東京で看護師
- 結婚後⇒化粧品販売をしながら
娘2人の子育て
- お世話好きが行き過ぎる
（娘様の言葉を引用）
- カラオケが好き



認知症の症状

- 施設は自分のもの⇒誰にでも**命令口調**
- 自分の居室がわからない
 - ⇒全ての居室が自分のもの
 - ⇒他室に入って**他の方の物を持って行く**
- つじつまの合わない会話
- **意思疎通が図れず、暴力的である**
- 落ち着かずに動き回る

入所してからのS様の行動



S様の対応で失敗したこと

短時間で落ち着いてもらうような声掛け
否定的な声掛け



余計に落ち着かなくなった
怒ってしまわれた

居室やトイレがわからない人であることを知っているにも関わらず、
夜勤者を常駐しなかった

⇒他の方の居室に入り、排便

⇒その後にそのユニットに職員を常駐し、センサーマット対応

見守り不足⇒トイレを浴室と間違い、服を脱いでパンツ1枚に
なった

センター方式の活用



【センター方式】

利用者本位のケアを行うための認知症の人のためのアセスメントツール。「その人らしさ」を大切に「私の～」と主語が利用者となり、利用者の立場に立ってアセスメントを行う形となっている。



センター方式の書式

24時間生活変化シート

2016年 4月 19日

時間	気分								その時の具体的な様子や場面	私の願いや支援して欲しい事(私が言ったこと、ケア者が気付いたこと、ケアのヒントやアイデア)	記入者
	非常に悪い	悪い	悪い兆し	どちらでもない	よい兆し	よい	非常によい				
	-3	-2	-1	0	1	2	3				
8								朝食時、向かい側で食事介助を受けている入居者様をみて、ニコニコされる。	ご自分も職員の一入だ	山田	
9								自操されてる方に「もっと右、そうそうそのまま前」等指示される。	と思ひ、手伝わないとい	山田	
10								ホールにて他の入居者様の車椅子をおされてお	けな		
11								職員がやめるように促すと不愉快なようすみせられる	場合がある。	中山	
12								一緒にパズルをすると落ち着かれるようす。	なぜ注意を受けたのかが	中山	
13								クイックワイパーでユニット及びご自分の居室の掃除をされる	理解できずストレスを感じる	中山	
14									他者を関わる事で自分の	中山	
15									居場所を感じ取られるようす		
16								「これから、家に帰るんだけれど」と仰られる。	ご自分に役割があると	中山	
17								気分が落ち着かないようす。	はりきって仕事をされる。		
18								「家に帰る」と落ち着かない様子みられる。	口調が強くイライラ感が顕著。	中山	
19								落ち着いて夕食召し上がる。	口調強い。	宮永	
20								パジャマに更衣促す。昼間着ている服の上にパジャマ着ようとされるので介助おこな	伝えた事を理解できていない。	宮永	

集計結果分析

時間	非常に悪い	悪い	悪い兆し	どのような訴えか	
0	1				
1					
2		1			
3			3		
4		1	1	起床し何をしたいかわからない。席がわからない。更衣がうまくできない。帰宅願望あり。	更衣は声かけだけではできない為付き添っておこなってほしい。1回で更衣終わるよう支援が必要。席は「こちらです」と職員がその椅子まで行き教えてほしい。声かけのみでは不穏になりやすい。朝の帰宅願望は散歩等行けない為朝食を食べてから、洗濯物たたみなど違うものに意識を向けるよう声かけしてください。
5		2	2		
6			7	帰宅願望・他入居者様の車椅子を押す行為・徘徊。	非常に悪くなりやすい時間帯です。他入居者様とお茶を飲んで頂く・歌を唄う・散歩などが有効です。表情、言動をよく観察し少しでも悪くなる兆しがあった際には密に関わりを持つようにして下さい。
7			1		
8		3		他者とのトラブル・徘徊・帰宅願望・車椅子を押す行為	落ち着かない・帰宅願望が多く見られる時間帯です。表情、言動をよく観察し少しでも悪くなる兆しがあった際には密に関わりを持つようにして下さい。
9	2	1	3		
10	1	2	4		
11	1		3		
12			5	夕食が終わり何をしたいかわからずウロウロ落ち着かない。更衣がうまくできない。帰宅願望	更衣は見守りをしてください。寝るまでに時間がかかります。居室のテレビをすすめるホールで職員と会話するなど安心して休んでいただけるような声かけをしてください。
13		2	5		
14		1	5		
15		2	4		
16		6			
17		1	4		
18		2	4		
19		3	5		
20			1		
21					
22					
23					

カンファレンス実施

他職種でカンファレンスを行い、24時間生活変化シートを集計分析した結果を踏まえ、対応方法を話し合った。

『悪い兆し』の集中した時間帯と原因

- ・9時～10時・・・**職員が入れ替わる時間**、職員が申し送りをしていてS様が話に入れず、**仲間外れにされた**と思っている
- ・13時頃・・・昼食後の口腔ケアやトイレ誘導で居室等に入り**職員がホールにあまりいない**時間
- ・夕方・・・**夕暮れ症候群**の時間帯

S様へどう対応していくべきか

- お世話好き⇒役割を持つ
できることをやって頂く
- 歌や体操が好き⇒他者と一緒に行く
- 落ち着かない時⇒他のユニットに行ったり、外出する。



考察

- ①センター方式の24時間生活変化シートを活用することでその方の傾向をつかみ、職員も観察力をつけることができ、気分の変化に早めに気づいてご本人の気分の悪くなる前に対応できるようになった
- ②職員自身のリスクに対する意識が高まった
- ③ユニット内だけで解決しようとせず、他ユニットや外出等、外にも目を向け、他のユニット職員と協力して**施設全体で関わっていくことが大切**である
- ④認知症の知識が深まった

リスクの勉強会



ご清聴ありがとうございました



《参考文献》

認知症の人のためのケアマネジメント
センター方式の使い方・活かし方

発行/認知症介護研究・研修東京センター